

村山民俗学会

第 388 号

発行日 2024 年 2 月 1 日

発行責任者 岩鼻 通明

編集担当 岩鼻通明

加藤和徳元副会長を偲ぶ

会長 岩鼻 通明

1 月 7 日に加藤和徳元副会長が肺の病で逝去されました。生前の柳田国男翁に会ったことのある最後の世代でした。謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。3 名の会員より追悼文をいただきましたので、以下に掲載いたします。

追悼 村山民俗学会の歩みと加藤和徳さん

野口 一雄

会誌『村山民俗』第 4 号（創立 5 周年記念号）に、「会の歩み」が載る。1986 年（昭和 61）3 月 22 日、県立博物館にて村山民俗の会設立総会の話し合いがおこなわれた。出席者 11 名の一人が加藤和徳さんであった。加藤さんは埼玉県から故郷上山に帰っていた。県内歴史の道調査で、会長となる月光先生と面識があった。わたしは加藤さんとは初対面だった。

加藤さんは埼玉県在住時代から石造物の調査、研究をすすめ、日本民俗学会会員、埼玉民俗学会会員などいくつかの民俗関係団体に所属していた。『入間東部の石造文化財』（入東史談会 昭和 51）などの出版物もあった。

86 年 4 月の設立総会で幹事に就任、11 月の県民俗研究発表会では「子もち石の伝承」を発表した。会の行事や会誌、会報には積極的に参加、寄稿し、会員の発掘にも率先して取り組んだ。創立 5 周年時、会員 63 名中 10 名が上山在住の方々であった。1991 年 6 月の総会にて、元日本民俗学会理事・前駒沢大学学長桜井徳太郎氏から「民俗学研究の動向」、日本民俗学会会員木村博氏から「虚空像信仰を考える」の講演をいただいた。上山温泉での懇親会には桜井ご夫妻、木村氏を囲み大勢の方々が参加した。いずれも加藤さんの尽力によるものであった。木村氏は上山出身である。後日、加藤さんがかなりの費用を負担したことを知った。

加藤さんの家は江戸時代、小穴村の名主を務めた。栄枯盛衰、加藤家の歴史をうかがうことはなかったが、高校に進学せず集団就職列車で上京する。勤めた会社経営者の一人が加藤さん生涯の師となる在野の民俗学者木村博氏であった。加藤さんは埼玉在住時から石造物調査に取り組む。その中心になったのは埼玉県に多くみられる「板碑」（青石塔婆・板石塔婆）である。研究家井田實氏との出会いも大きかった。加藤さんは井田氏との共著『富士見市の板碑』を出版している。加藤さんの出版物には、「蓬萊波形山叢書」、「蓬萊波形山文庫」と記されている。小穴の地名由来については、小穴の波形山西方にある風吹穴に由来するといわれる。加藤さんの玄関には「蓬萊波形山」の板札がかかる。小穴の地こそ、仙境・蓬萊の地であり浄土であると、加藤さんは信じていたのかもしれない。村山民俗の会、村山民俗学会の仲間ともどもお世話になりました。ありがとうございました。